

島崎藤村と塩瀬饅頭



名掛丁東名会 梅津恵一

「たかが饅頭されど饅頭」昭和12年に島崎藤村は静子夫人を伴って、前年八木山に建立された直筆の「草枕詩碑」(名掛丁藤村広場に移設)を見に40年振りに仙台を訪れた。その時に書いた随筆『仙台の二日』に、仙台の塩瀬饅頭を土産にしたと記してあった。藤村が好んだ饅頭とはどんな饅頭だろうか興味をそそられたのが事の始まりだった。

十数年前の話で恐縮だが、新聞で塩瀬饅頭が話題に上っていたので再び興味がわき近所のご隠居さんに話をすると、青葉通の光明堂が古い和菓子屋だからそこで聞けばわかると教えてくれた。早速たずねると若主人が対応して下さり、室町時代に中国から渡来した林浄因が日本に始めて伝授した饅頭が塩瀬饅頭で、今でも東京にその店があると教えてくれた。東京にいる弟に話すと、練馬区の東大泉に宗家塩瀬という店があり電話番号も調べてくれた。早速店に電話をすると、当家の娘さんが対応して下さり、かつて島崎藤村がわが町内に下宿し、塩瀬饅頭を好物にしていたので、是非その饅頭を町内の皆に食べさせたいと話すと、快く承諾してくださった。品質を保つために、食べる日にあわせて製造して送ってくださるといふ。

驚いた事に聞いた話によると、34代をお継になられた五味阿つさんは藤村と同じ銀座の泰明小学校をご卒業されたそうだ。藤村は10歳のときに上京して銀座にあった姉の家から泰明小学校に通っていた。つい先日同窓会があり、同窓生8人に付き添い8人の会合だったそうだ。そういえば以前に高価なブランドの服を制服に決めて話題を呼んだのも、この泰明小学校であった。

町内会の会合前日、待望の塩瀬饅頭が届いた。その中にしおりが内封してあり、店の驚く歴史が記してあった。興味を抱いて図書館でさらに文献を取り寄せ調べると塩瀬の初代林浄因は、貞和5年(1349)中国より来朝して奈良に住み、日本で初めて餡入りの饅頭を作り、後村上天皇に献上したところ大変喜ばれ宮女を賜わった。その後京都に移ったが応仁の乱が起こり、その戦火を逃れて三河塩瀬村に移り住んだのが屋号の由来。室町時代には後土御門天皇より五七の桐の御紋を許され、又足利將軍義政公からは「日本第一番饅頭所」の看板を授かった。その後豊臣秀吉や徳川家康の寵愛を受け、さらに孫の宗味は茶事を好んだ事から、千利休の孫娘を妻とし、茶道と深く関わることで饅頭は茶菓子としての技術が発達した。その後江戸に移り、さらに明治初年からは宮内省御用達の栄を賜り、創業以来650年連綿として今日に及んでいるとの内容が記してあった。

しかしこの由緒ある塩瀬饅頭を何故藤村が仙台で口にすることができたのかは不明だった。その答えは仙台駄菓子屋の元祖熊谷屋の創業三百年記念史に記してあった。

仙台藩には饅頭で名高かったお抱えのお菓子屋が2軒あった。大町一丁目頭にあった「明石屋」と南町の「玉屋」で、両家を作ったのは日本で最初の塩瀬家の流れを汲む塩瀬饅頭であった。明石屋は、四代藩主綱村が日本橋の塩瀬山城の饅頭を、藩主御用以外販売しないことを条件に、三代目惣左衛門に覚えさせてお抱えとした家であった。一方玉屋は、京都の塩瀬家から伝授を受け、「日本第一塩瀬家」という看板を与えられて創業した。玉屋は江戸藩邸への献上を主と、その後伊達家から將軍家への献上御用も務めた。

明治維新後、玉屋は早期に廃業し、明石屋は太平洋戦争の戦禍に遭うまで営業していた。故に藤村が土産にしたのは明石屋の塩瀬饅頭で、名物としての価値を十分に認識していた。

それにしても藤村は若い頃から本物を見極める才能を持っていた。処女作の若菜集を出した時も、当時人気を博していた『金色夜叉』を出版した春陽堂を、そして挿絵には洋画家の中村不折を選び、その後の詩集の挿絵は下村観山や菱田春草 横山大観らを起用した。また童話の挿絵には竹下夢二を選んで評判となった。更に料理と陶芸の達人である北大路魯山人の星が岡茶寮を最良にして、自分の結婚式や息子の結婚式もここで行われた。西洋音楽にも若い頃から関心を示し、日本では無名のドビッシューをいち早く評価して音楽関係者を驚かした。そんな藤村であるから、仙台に来て目ざとく塩瀬饅頭を見つけたのだろう。

話はとんだ展開となってしまったが、肝心の塩瀬饅頭は一口サイズの白い饅頭で、大変シンプルなものであったが、味覚音痴の私にも上品なうまさがあった。近所のお茶の先生に話を伺うと、塩瀬饅頭はお茶の世界では大変名が知れた和菓子で、地方ではなかなか手に入らないとの事だった。やはり知る人ぞ知る塩瀬のブランドだった。改めて藤村の眼力に感心させられた。

参考文献

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 『島崎藤村展～言葉につながるふるさと』仙台文学館 | 2002年3月31日発行 |
| 『元祖仙台駄菓子 熊谷屋三百年史』熊谷屋 | 1997年3月31日発行 |
| 『老舗饅頭』「サライ」編集部・本多由紀子編 | 1996年9月20日初版第3刷発行 |
| 『ネリマ情報』(株)ネリマ情報協会 | 1994年9月1日発行 |

関連図書(お菓子に関する随筆やエッセイ集)

- | | |
|---|--|
| 『おやつが好き』坂木司/著 文藝春秋 2019.4 914/サカ | |
| 『ずっしり、あんこ』青木玉/〔ほか〕著 河出書房新社 2015.10 914/アツ | |



昭和12年6月 八木山の詩碑を訪ねる藤村夫妻

